



人生
富岡貴林著
發明道中記
二編
上

No 39
四冊
東京神田猿樂町字目拾黄地
三河屋幸三郎

口 9
1516
3



遠口

富岡實林作



一生 救 明 道 中 記 二 編

後重画

富岡實林編
人間發明道中記二編上之卷

第七驛

酒惡街道上石宿○凡男女も此酒惡店に入るもの。
若事やひきひきすくすく稀にしく。それ悪の
の妹とあかき。酒よりききあり。あつれども富岡
乃人。群ふくあれ。こも酒めらありといふ。
人もさうめ。金銀貨指幣をわき。器物をあ
ふ。或は本性を失ひ。具にまう。く間まへへ
ね。す。い。多。ありて。遂り。過。を。吐。き。喧。嘩。

發明道中記二編上

口端をひきつゞ。疵を蒙る人をおやほめるお
 あれども。何れも老く是を酒の替り托つけ。うらみ
 悔む色あり。生醉中性連のまゝと云はる西国を失ふ
 づも恥づもおもふぬ土地風なり。○まづや南國の
 道もた一廻り一々曲まるなり。土俗はひざり
 道とのみうゑも何り。○下戸といふも香あふ一ハ
 酒量定る板屋より。喧しく深入し。日くひ上戸
 泣上戸。おと立上戸。おと結えむ村をまね無程の

通里を廻り行き。宝徳
 洋の故事をよお務る
 にひれり。ま酒を
 氣を明し。助陽壮神藥
 消愁宜言暢念。ゆ一
 り百葉の銚子ざりと
 ち同いぬおまふ。今五
 法くもあふみあ聖人



大月道中記二編上

酒を醸しつゝお祭神老
 除病ゆつゝ加穀を消
 耗しつゝ作せしめ。是
 と天の災禍と稱す。吾
 ゐの換老も十六羅漢の
 一人なり。仏の謂所五



戒の一戒。おむと一升の
 徳村あらばや。徳口とや
 とあんちまの。赤ひやう
 重ねく。おのふあく。右
 鼓歩火。おのふあく。芳燈の
 性味ある。下戸のふあく。取
 毎天の味ひ。さあふあく
 のあふ。おのふあく。

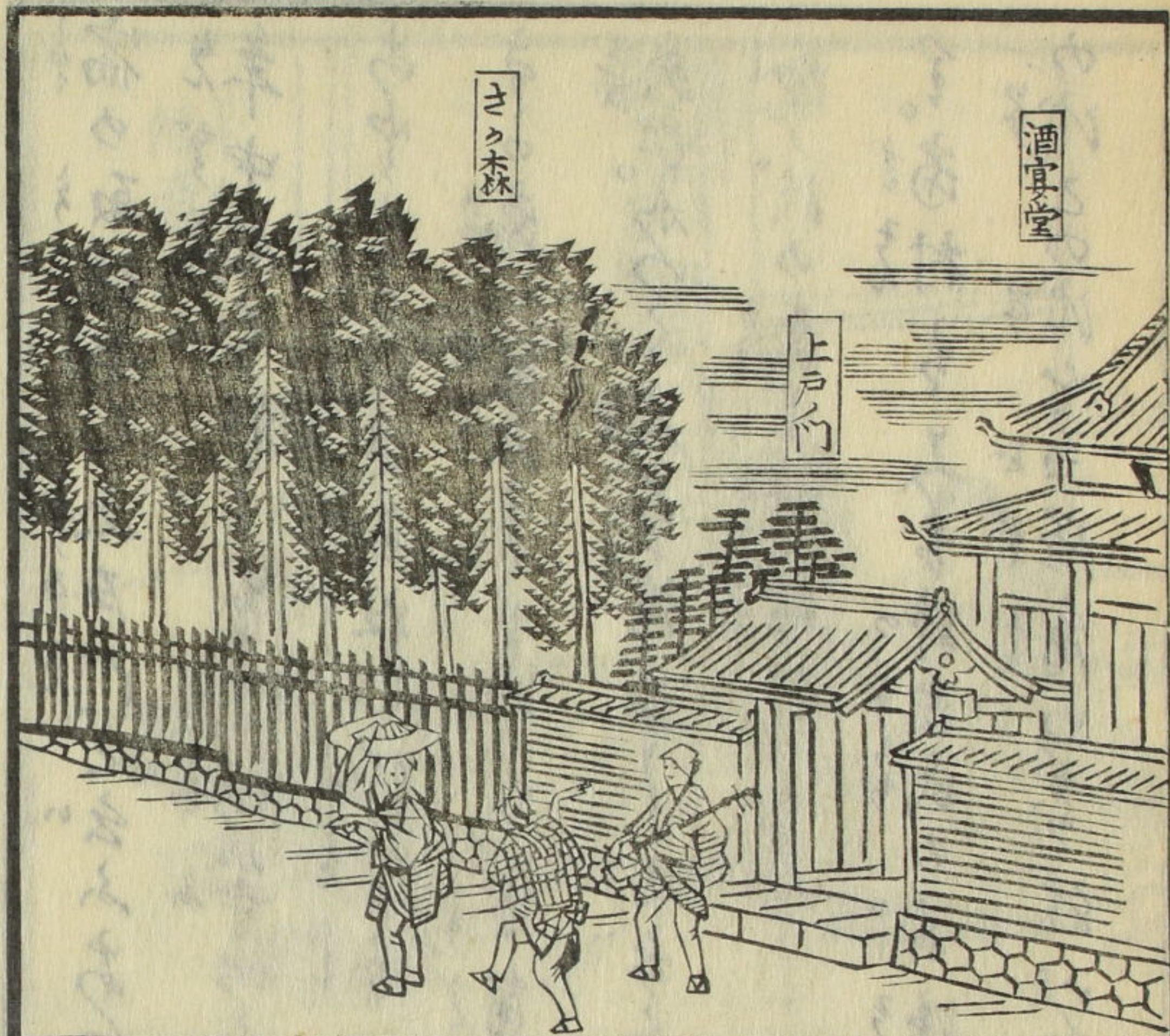




酒悪
人殺

尾もふー路らもふき
尾長ふの。はながき
の永くと終ひ上戸の
癖くるく。酒狂酒れり
人とあやめ極悪なり
へるとのけり。思はれ
むぎ大難不と覚悟
て通りぬ。

宿の取はき○上戸門と云ふあや。六の門志よりなく
年中めむねーなり。何等いふとんだといふハ門の
あやあり○さこの杜○酒宴半何りこの酒宴半より
さの歳一運入ーもの。方角と云ふ色出るみあや
失ひ。かつく人をあやーと云ふ。下松の國八幡の八幡
あやの歳も。此新ひあやとーといひ傳ふ○酒宴村あ
や。あ村もみあ野良氏のあ孫ありと云ふ○酒宴
の比。この比を土俗あやと云ひけり。その酒宴と

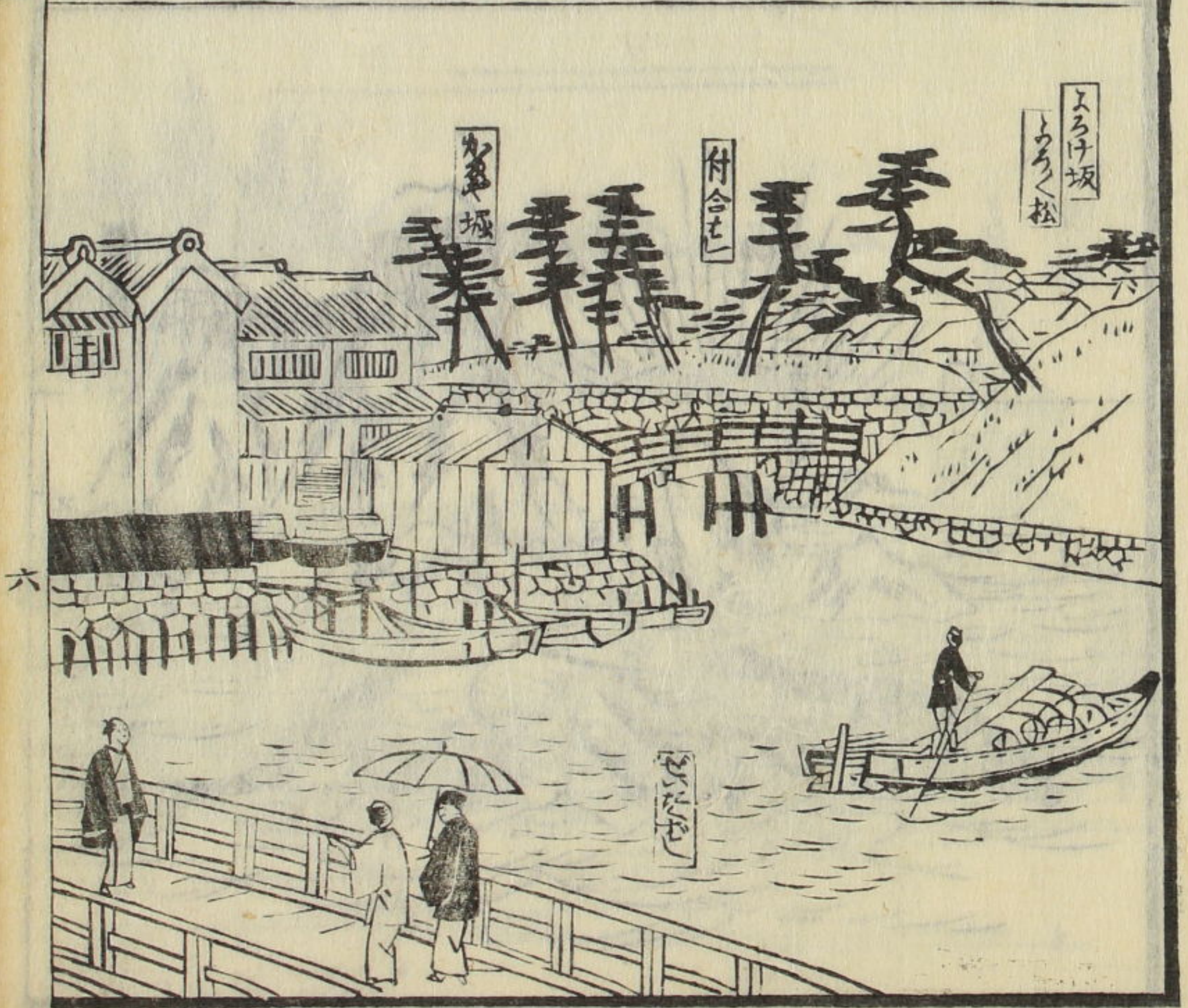


初めはうらば ○ 拳垢
 林あり ○ 後八 ○ 一本 ○
 とつち ○ おまつる ○ こと
 おまつる 以てあり。おの巻
 酒林ありおけの宴多
 なる。色いろくあし。
 巻はるゝの應技池一
 ぐ ○ 頭痛神巻石のかと

ちうに生は ○ 二日碑 ともあり
 土人の顔は色よく兄若くは所あり ○ 名物 水難
 炊 ○ 玉ふさうき ○ 湯豆腐 ちうと何のむしおけ極熱
 炯ろくひつくる所あり ○ 空ッ系に。酒毒の末あり。
 人々もやと老く 加減あり 小治原より いそく酒毒
 の末は実あるゆへ。おけは成し行りおけ羽ある日と枕
 能あがりぬ難所あり ○ 吐血村 ○ 内村。等へいし川への
 疲村よりくくはし事多し。此所よりたへ性く ○ 贅海

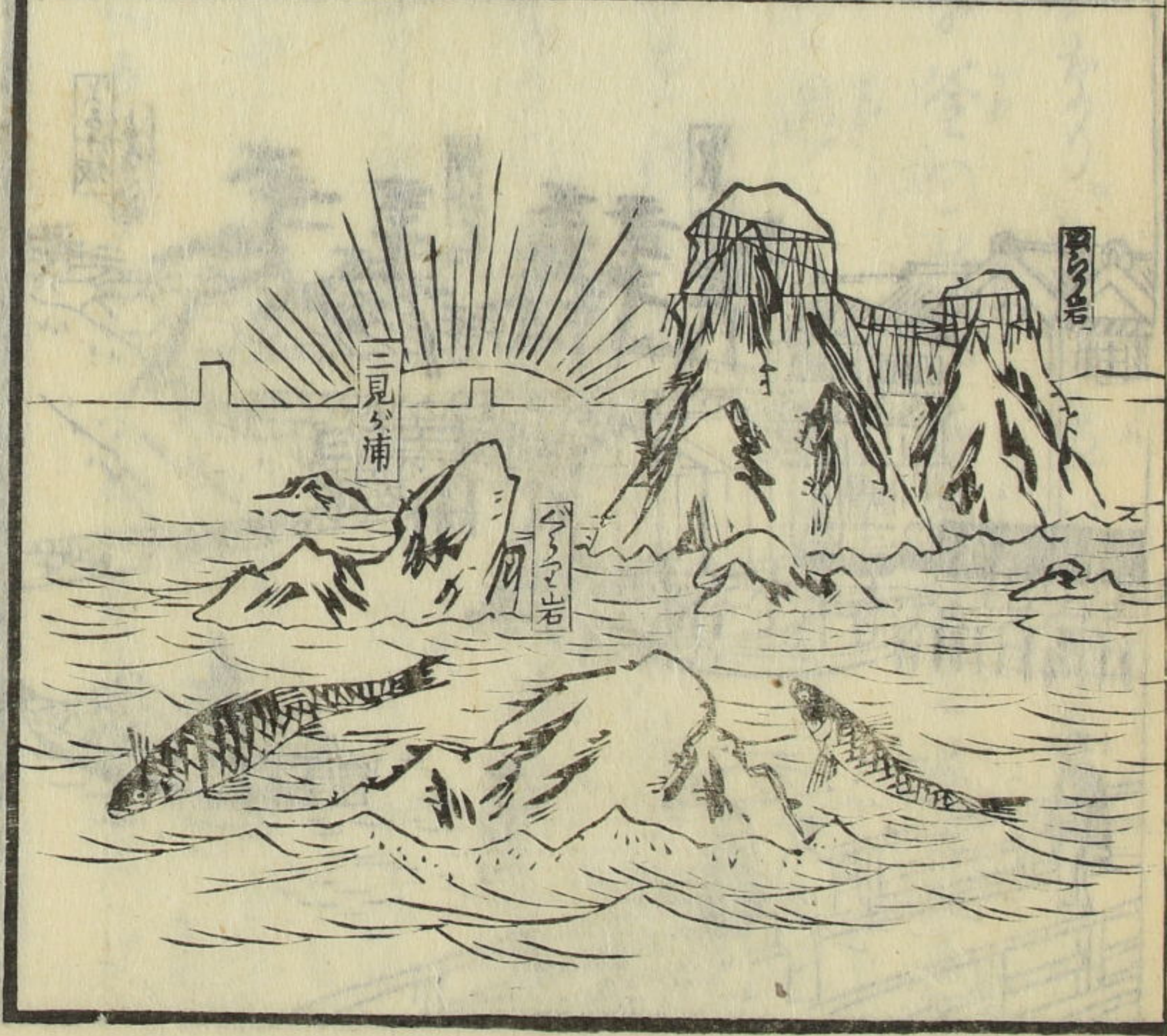
橋をわたり○登屋堀あり。大乃色登職人多く任
 むゆへの名あり○春茶登○松ひあ登。あど造るそ色
 と望○たろひ梨子畑を過る○附合橋より○向ふ水
 新渡しを越へ海をを往く那り○兵兵のつたれ○
 知るるく松乃名所あり○久多溪の溪急なり
 巻舟多く出る。瀬をゆく溪舟を比溪より出るゆへ
 其土人れくをゆくゆへみゆふ○そのい鯉の魚多
 ー。このきけ冷溪河のぼりる子をさるるなり○又

大の河に○大經あり○
 二見が浦○滑岩ハ苔一
 面より生トせぬく
 古きバカリ○俱羅利
 岩の浪より色に動
 くと那り。此二岩は五三
 を張りとあう那り。朝の
 景色むよく名所なり

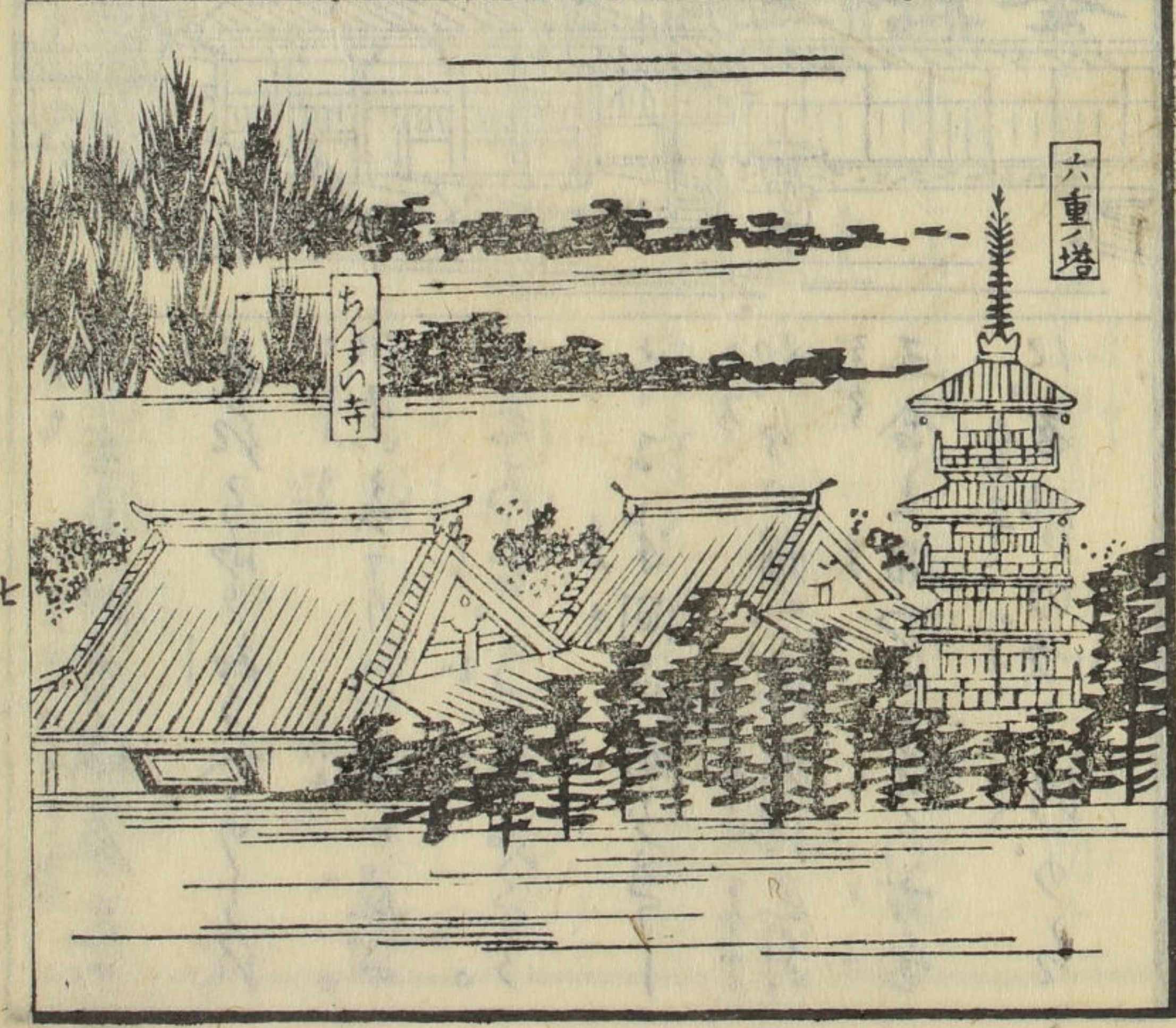


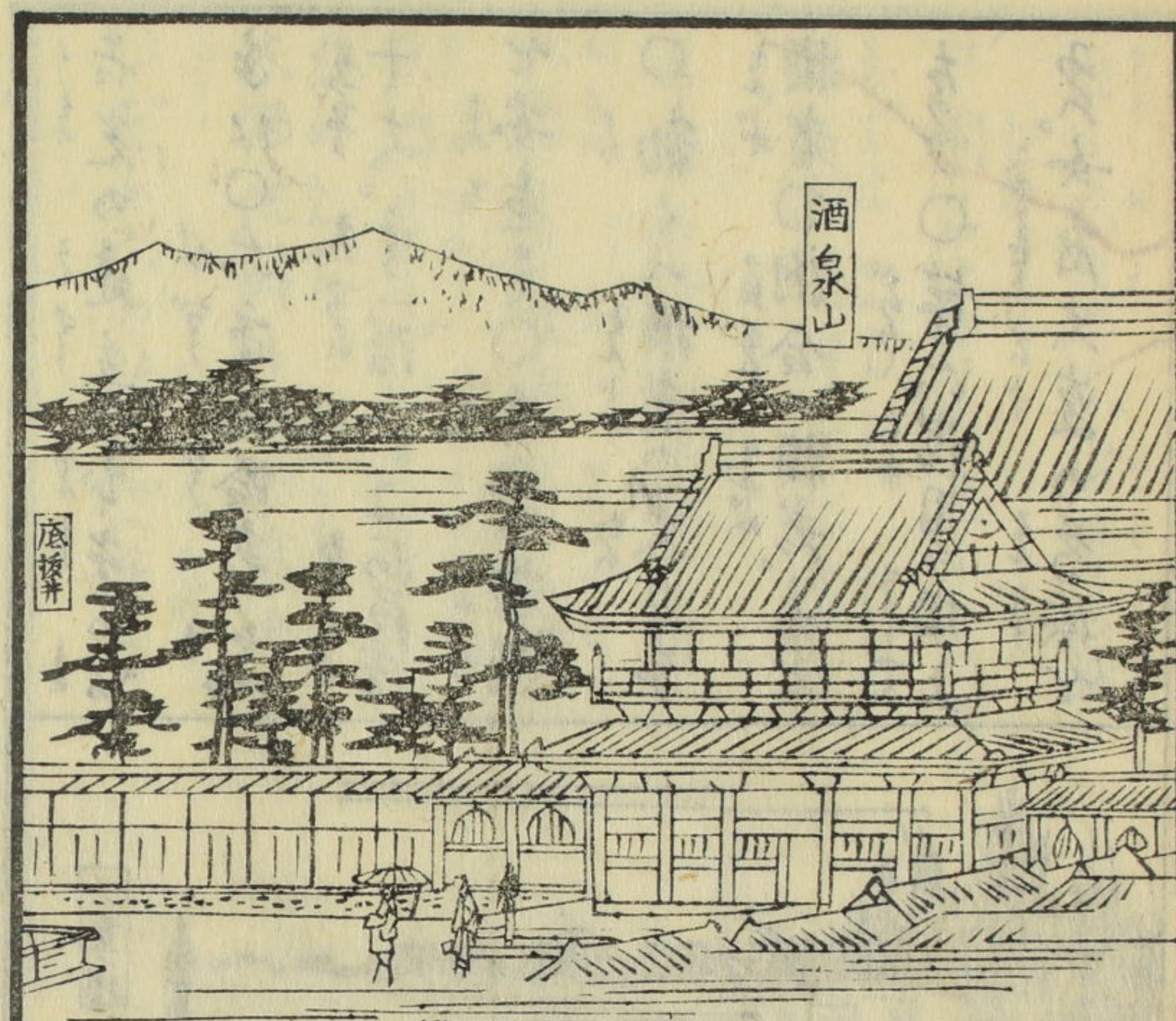
後月道中記二編上

龍も夕暮る。伊勢の國
 に同名あり。是より○
 酒泉に沈醉寺○當寺
 灘の帝乃草創う。て
 城内より末寺多く焼討
 名酒多し。○本寺生侍
 大酒沈醉の形形容あり
 ○此の六の弥陀へ長春



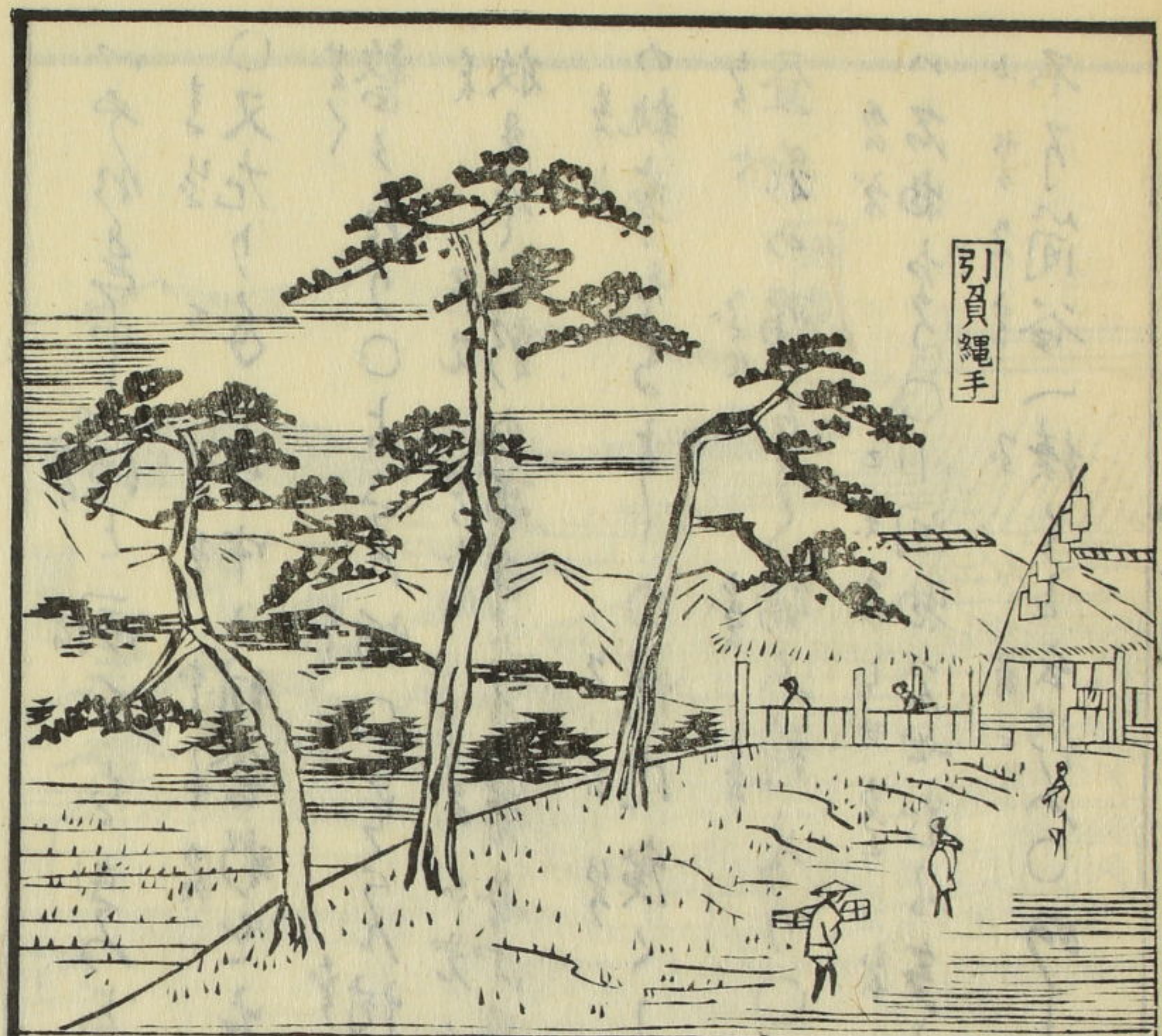
吉光の建立○本寺の古
 手に○六重の塔あり。さ
 十丈。其一階より阿彌陀
 安を先○春ぬの換者
 ○勤くハ換者○大さか
 換者○附合ハ換者。あに
 あり○第六階目の頂上
 あり。女房火堂の像と



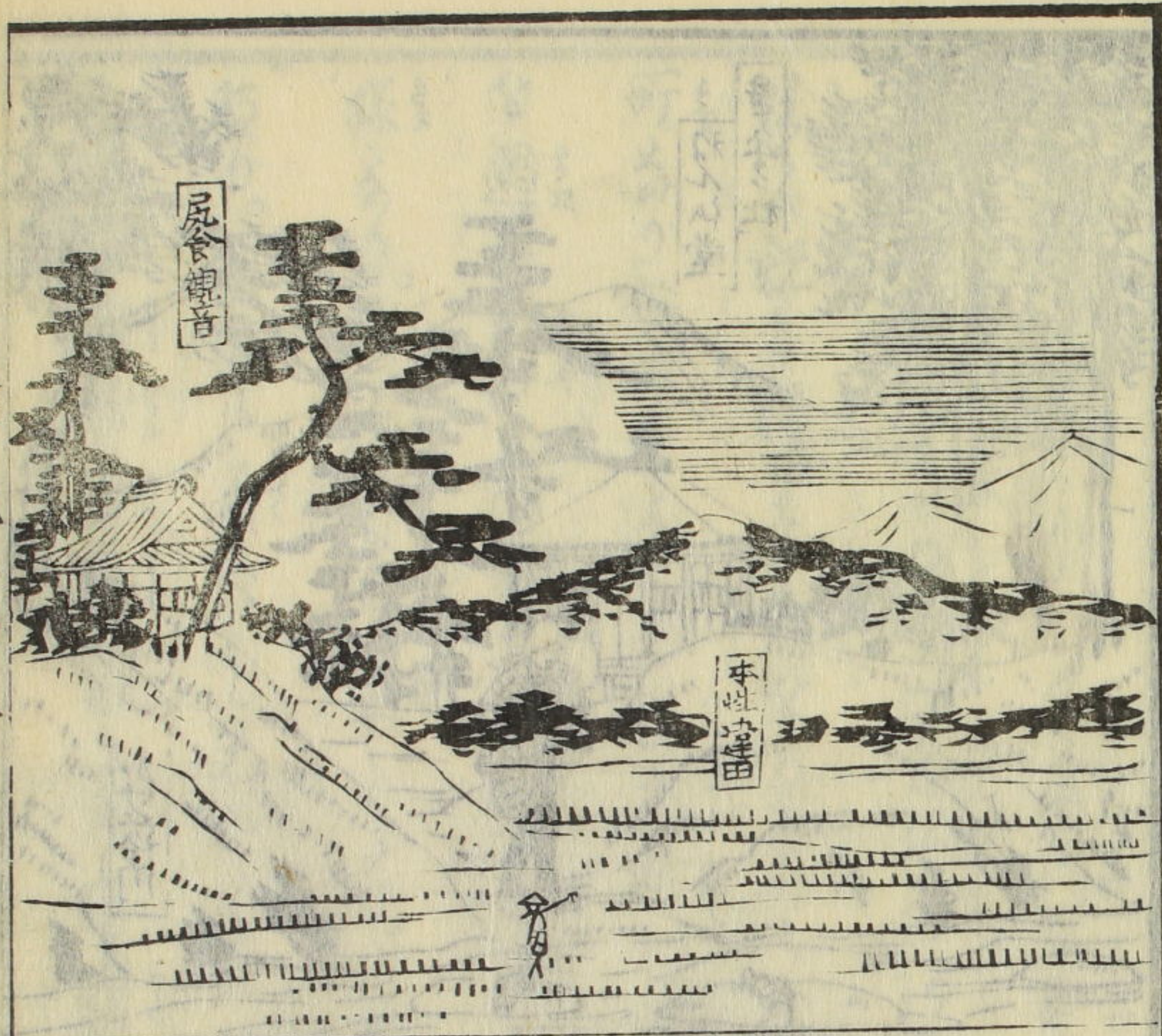


安重を。此の像鼻毛の
 長はるや。知る。この代
 明。云。り。○思。へ。底。ご。
 べ。老。ろ。舌。る。磨。ろ。ろ。
 中。は。半。間。ご。か。ろ。ろ。
 利。ろ。ハ。後。ろ。春。大。酒。と。升。
 五。合。と。留。ろ。ろ。ろ。○古。ろ。
 西。風。の。吹。ろ。ろ。ろ。ろ。

以。や。れ。る。酒。と。同。ろ。ろ。ろ。と。と。升。と。と。ろ。ろ。所。也。
 ○又。ろ。ろ。ハ。寺。中。の。村。舎。水。を。ろ。ろ。ろ。各。遍。ろ。と。掲。ろ。ろ。
 整。ろ。ろ。ろ。○よ。ろ。ろ。傍。○ろ。ろ。ろ。村。○泥。田。村。○又。ろ。ろ。
 枚。ろ。ろ。一。村。の。末。寺。ろ。ろ。皆。無。ろ。具。屬。寺。と。ろ。ろ。ハ。當。寺。
 の。執。事。ろ。ろ。ろ。○境。内。廣。ろ。ろ。ろ。整。花。の。地。
 登。ろ。ろ。の。隅。ろ。ろ。ろ。新。ろ。ろ。○太。平。糖。○ろ。ろ。卷。葱。餅。
 ハ。名。物。ろ。ろ。○小。回。物。ろ。ろ。世。に。ろ。ろ。○底。ね。ろ。ろ。井。戸。ハ。○
 不。ろ。ろ。簡。谷。一。續。ろ。ろ。と。云。傳。ろ。ろ。○ろ。ろ。老。探。底。ね。ろ。ろ。ろ。



文體にさるるに。ほんま
 不り答ふといふ事
 あり○本姓連の田○
 食ひ倒出田新田を過て
 ○焼餅坂一和る○青ッ
 相の本多。濁り酒で
 も清酒が冷や上り
 ら旅一和と。茶をんが



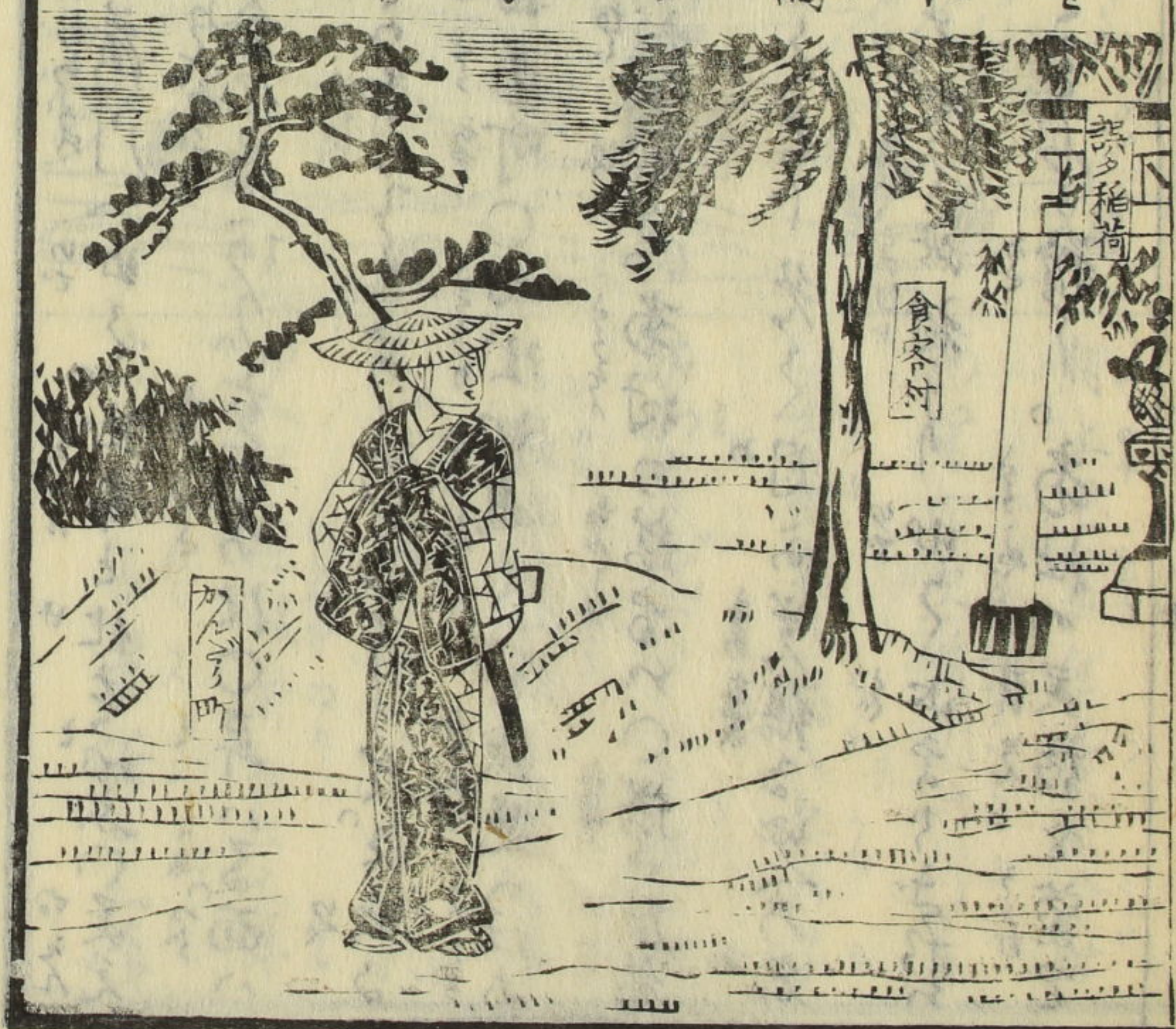
ぐいぐいひつゝある立
 坊屋あり○引負
 系○不首尾の松横り
 兄や○是より風食ひ
 観音堂へ来るなり。この
 歡喜堂の傍に○今板
 半かん物見の松あり
 緘上戸村一徑道あり○



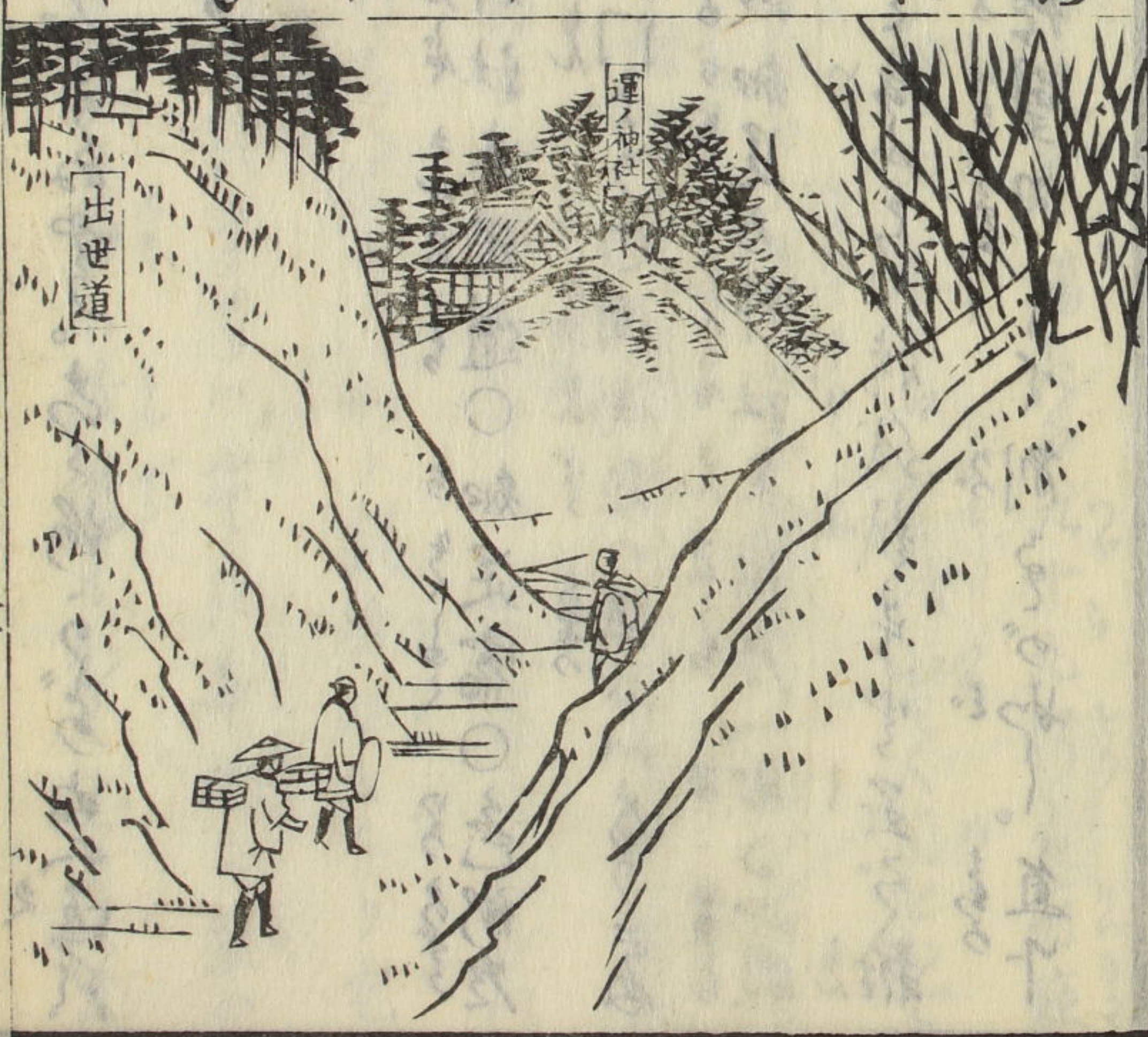
付上せ業を憂る人々
 何里(欠落川)此川
 ○出奔あり初ハ此の子
 此れがぶく(と)酒を飲
 る。後ハ仕候と云ふ者
 く。吾れく(と)あつた
 中(に)度援井戸ふ三年
 中(に)不(り)苦若ふと云

功を續く遂り此欠落川(一)出く。出奔と化す(一)美え
 不(可)の森○るの身(一)念仏堂(一)何(り)右(に)○耳(ハ)面(ハ)
 性(一)就(ハ)海(一)お(と)る(一)も(一)す(一)く(一)と(一)と(一)云(一)る
 所あり○古(一)より○動(一)町○四里切通(一)○義絶(一)の杜(一)木
 と過(一)く(一)湖(一)く○食(一)客(一)村(一)出(一)る。客(一)村(一)の(一)宿(一)當(一)の(一)保(一)と(一)緒(一)為(一)
 様あり。諸(一)人(一)此(一)處(一)へ(一)来(一)く(一)ち(一)に(一)然(一)る(一)目(一)み(一)事(一)緒(一)る(一)中(一)乃(一)名
 所(一)り。急(一)る(一)角(一)に(一)と(一)去(一)く(一)此(一)村(一)り(一)此(一)く(一)止(一)ま(一)り(一)お(一)れ(一)が
 あ(一)ら(一)び(一)本(一)然(一)街(一)道(一)之(一)此(一)く(一)中(一)難(一)く(一)。南(一)社(一)の(一)美(一)徳(一)を(一)蒙(一)り

○世に事なりける身を
 清く正しく送りしに
 ありとて、未練な麦酒
 ○味淋酒あつた春まで
 べ○この酒と稲荷は
 神社へ糸籠へ。更に
 化念を起さば、稻荷も振
 らば。其直りゆけり



出世の道へつる。あ
 途筋も余程の難所に
 十二分の苦辛を堪へ
 志のびぬるさまで、
 ○運の神社は、
 移りしと喰ひあるは
 火。まゝおんを、
 木のはね、



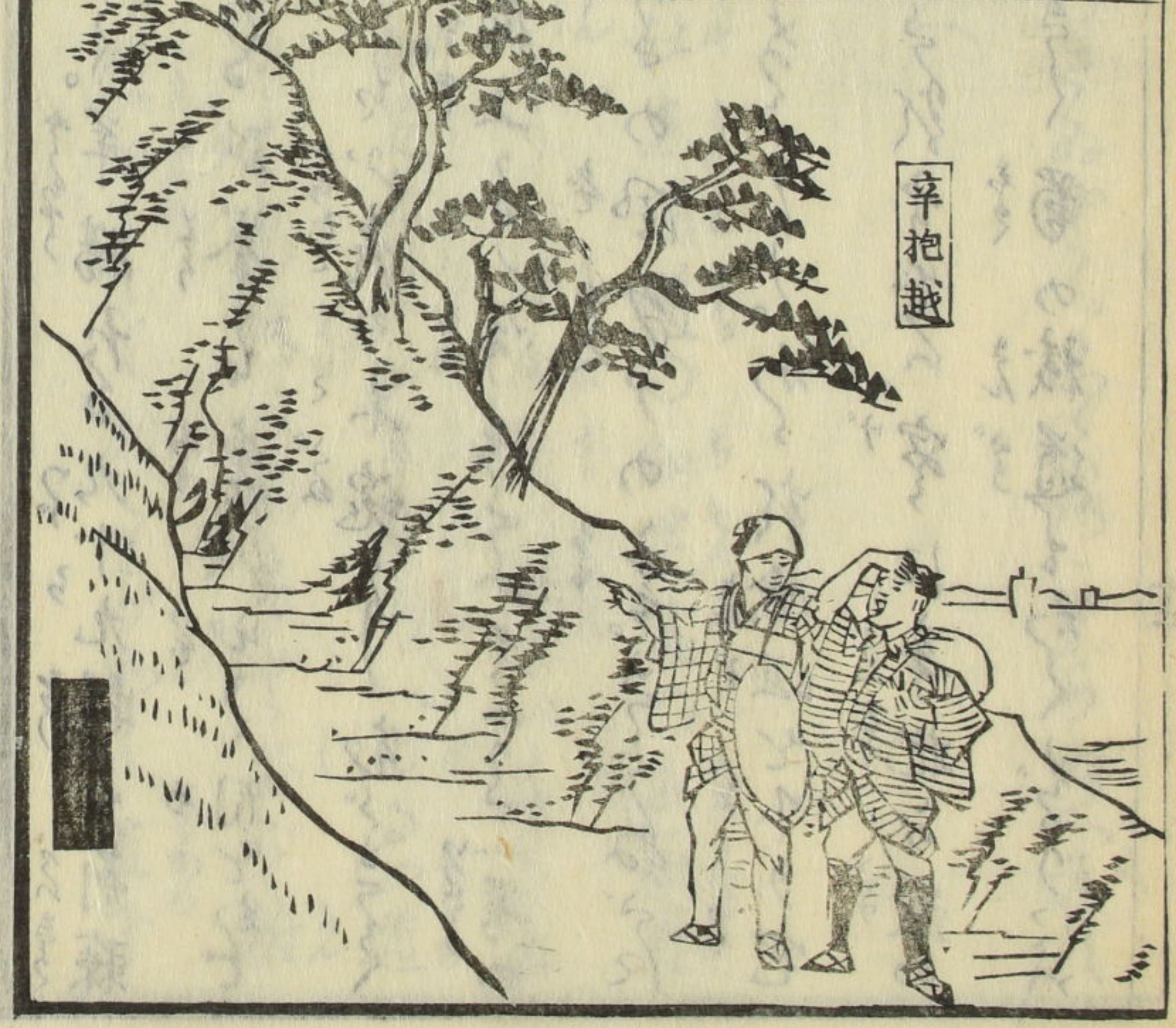
はまづに谷間へささづきぬやう。さう後、のちのち、
かゝるも情々たるやう

第八驛

本然同道。知足の神社末梢道。○知足宿。○色部
を、其見の関。帰来の門より。○酒部。○酒部。○酒部。
より。運の休を過ぐ。以、知足の神社末梢道。一、
何り。色を。幸、抱越。と、さふ。この、
最なり。仰、上。色。を。極、壁。刀。一、
削。る。が。や。直、下

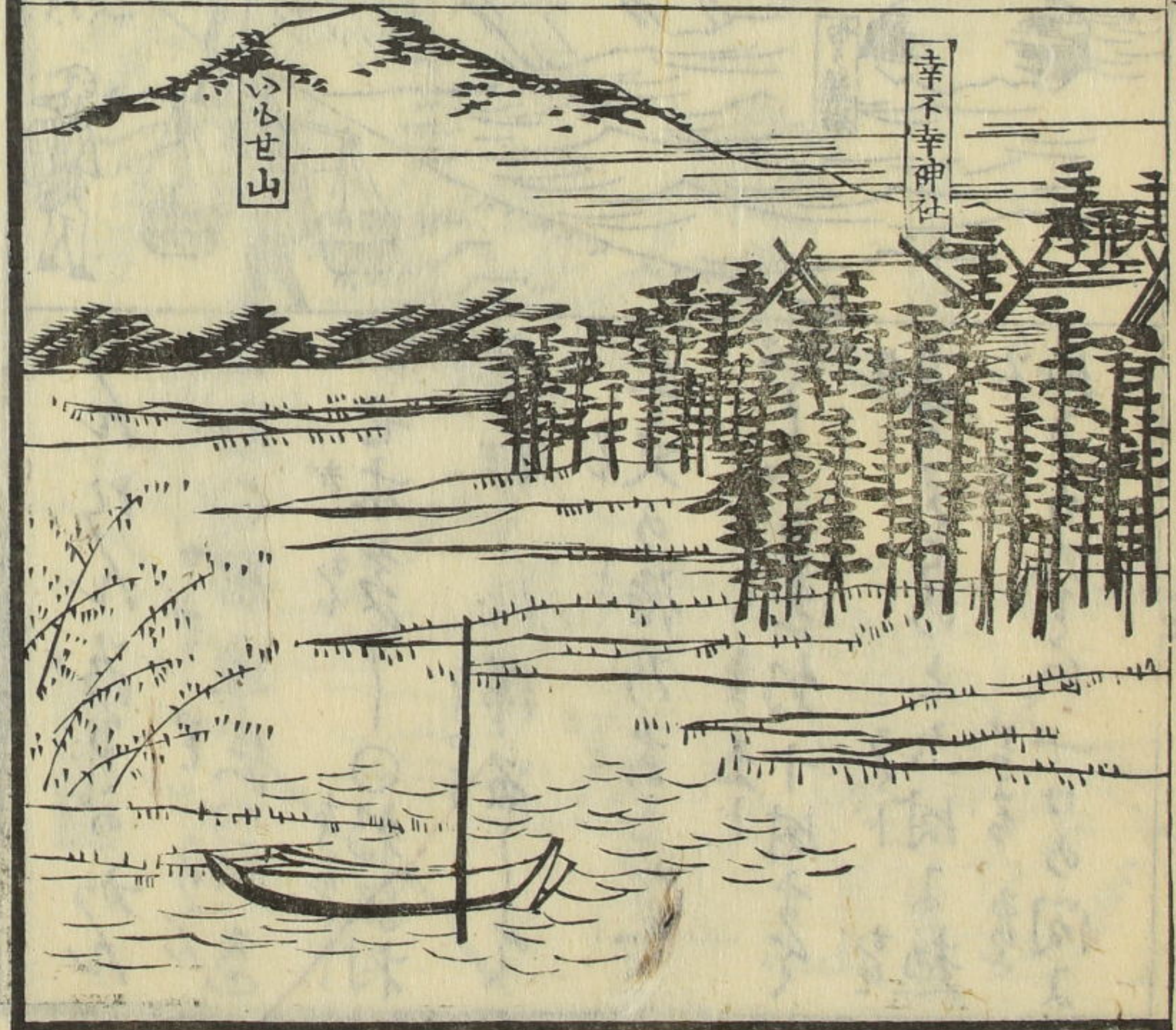
其、青、潭、藍、より、も、青、く。羊、腸、た、る、九、十、九、
足、を、あ、や、ま、し。突、冗、た、る、孤、峯、を、雪、
ろ、ろ。寺、の、鐘、を、お、き、た、る、木、
う、悲、し、く。山、猿、樹、上、り、啼、泣、
愁、ひ、成、増、さ、し、む。好、ま、の、風、
腰、を、の、り、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
○運、の、神、の、祠、め、に、お、か、す、
空、に、幸、抱、お、獄、の、
空、に、か、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
蜀、の、残、道、も、か、く、さ、さ、さ、

何る處のくば。西洋の
 ダウロス山を是るに
 ちよもあらどとあふ
 同道第一等の山と
 嶮岨あり。○運の神の祠
 ○松坂あり。古きに
 ○かんらん池ある地
 うきむのちりぬ

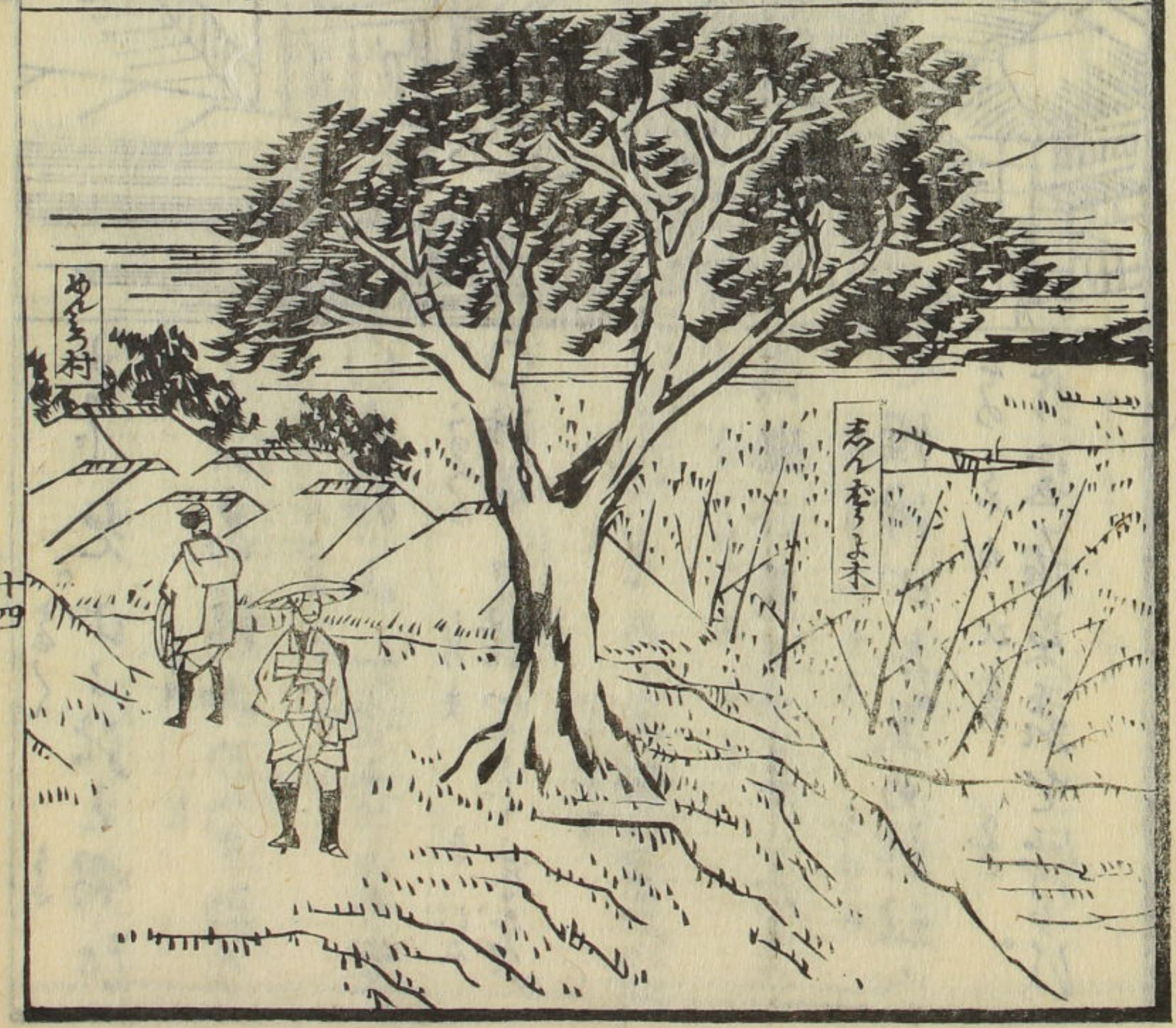


かんらんなるがかん
 あり ○融通の山を
 かせ木多し ○朝起村
 當むに滞るゝ
 三文の強乃あるは
 づ。そき船十箇中ぐ
 勝るものと六箇に起
 出るものあり。一日の間は

四時の損位あり。徳も
一月の法よりあは五
法損位あり。人生一生
と五十年と安お場所
見残りも。其間り
五年の出入とあるあり。
別五年の長生なり。
○幸抱能末。此本記



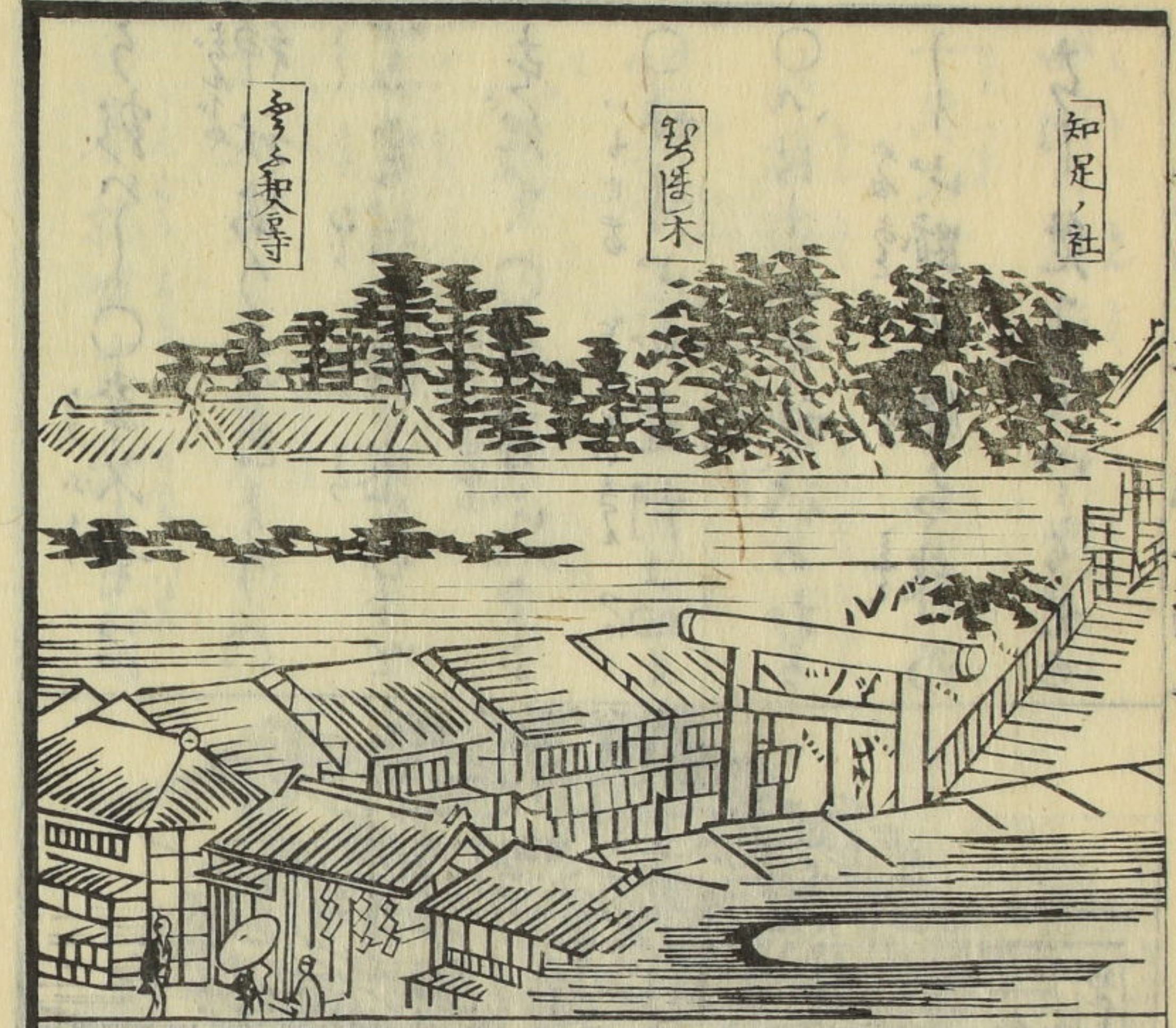
う新へー○幸不幸社
神社ありあきより○
竹実村○綿密むら
きんて○妹背山一
○妹背山女庭別又回
○いんせ山の神代むら
一山跡の園ち都乃
ちん免るくいせの



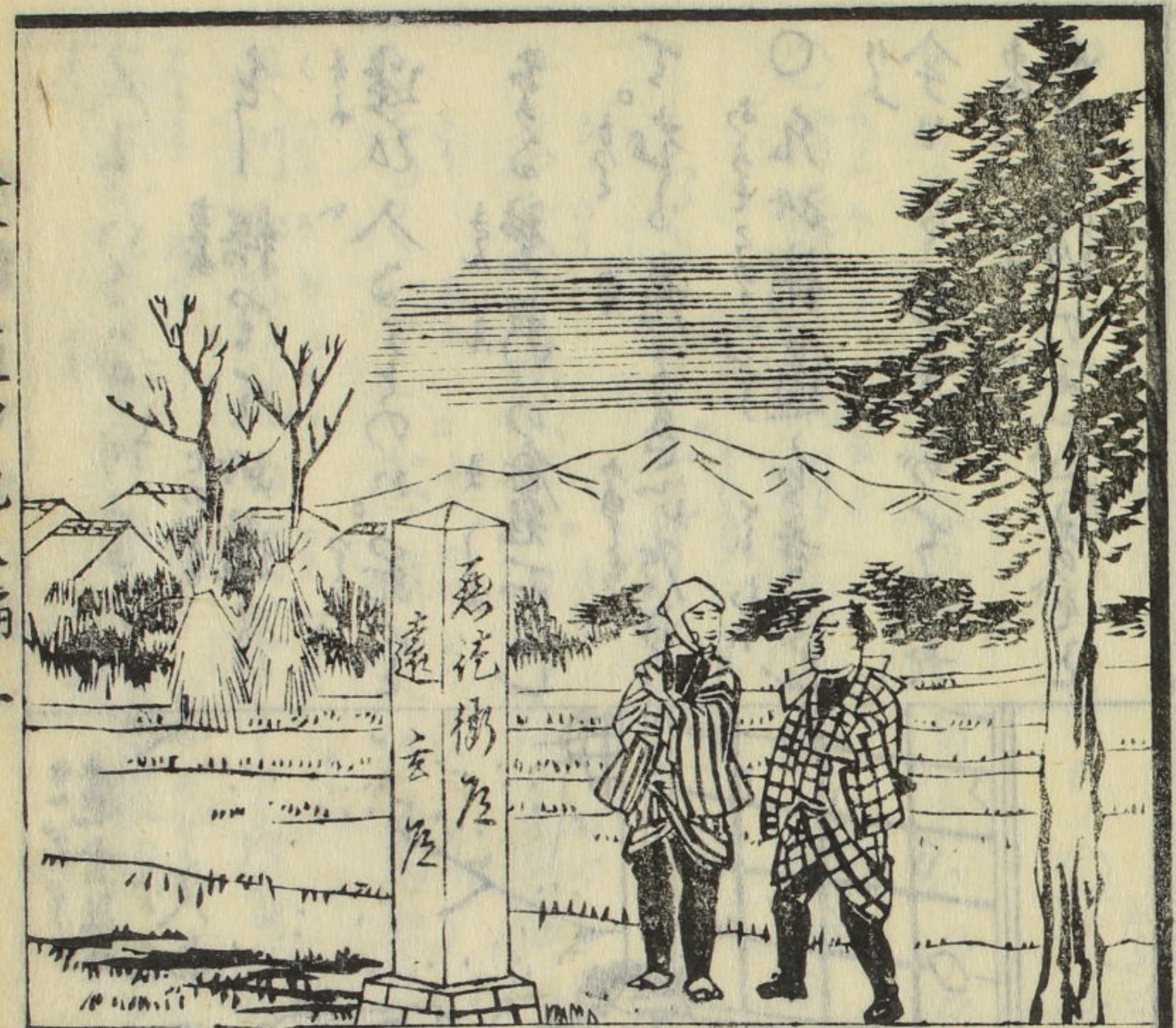
知足社

智恵木

寺々知寺



ちり。山と山と
 一山山山山山山
 ○夫婦山和合寺あり
 ○路辺に睡る人あり
 ○身の上坊屋あり
 名物正産蕎麦これなり
 ○経山知足の神社
 そのまゝのびる
 寺家居安を飾る



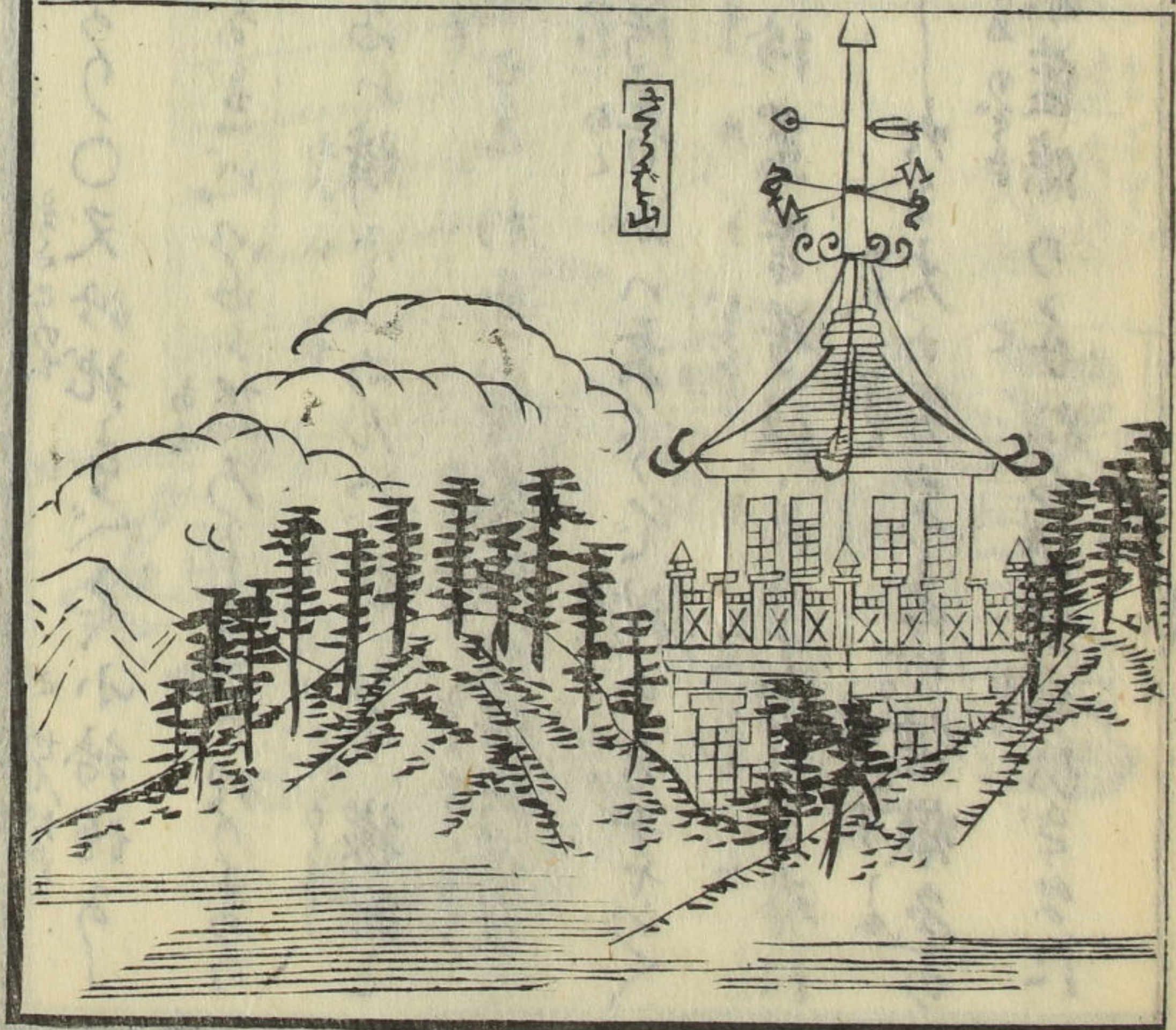
只清浄を旨とせり。結
 是より身が恒ハ震重
 万をともくはるり
 為せり。
 第九驛
 悪徒遠玄道破産者
 ○此地街道中第一の極
 悪なり。尋常の腰

人々 ひとびと いるる ゐる 所 ところ なるべし。
 之 これ 程 ほど 里 さと へ 此 この 道 みち へ
 迷 まよ 入 い る まよ もの もの 也 なり。 死 し 人 ひと と
 なる なる 勢 いきん 断 だん の 魔 ま 鬼 き 所 ところ へ
 去 さ る さる 鬼 おに 子 こ へ 入 い る は べし
 今 いま 々 々 相 あひ 違 ちが へ ぎ ぎ ち ち した。
 昨 あ 日 ふ 誰 たれ の もの ぶ ぶ あ あ せ せ と

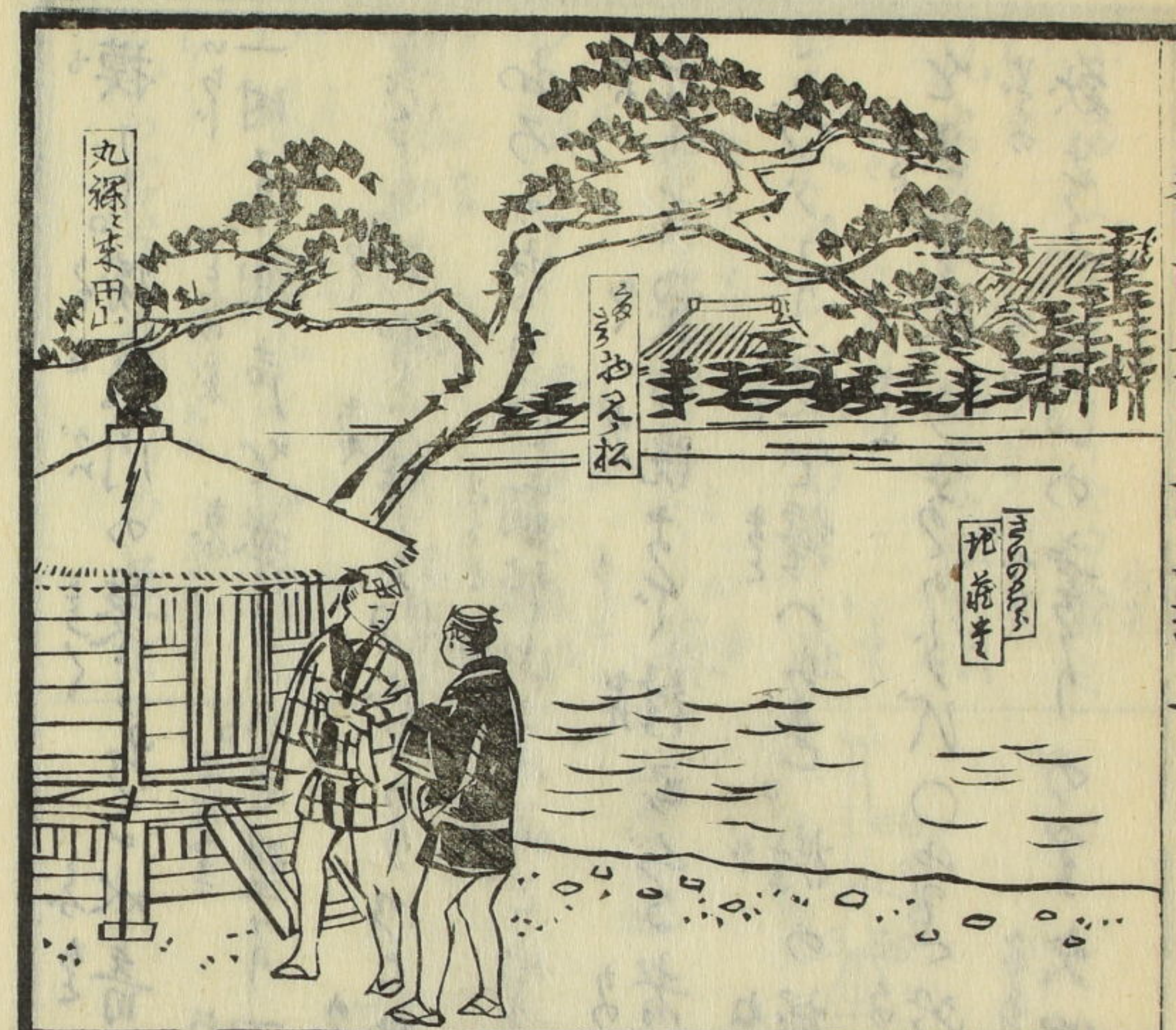


学甚しき土地なり○又此地をくく小幡あり
 人絶る魔所あり。以て恐るべきものなり
 ○標蒲る雨をたふす燐火一めんに燃いぬ。猿猴と
 一ちる人々中へ現はる。わさち安陸の許で置あり
 と名をいふ。刀の鐔音のいふとて鐔の音やしく
 とくく写へ急激突銚罵詈訾後方の大く脊に
 俱利伽羅龍の刺をくちたる大の男あり。緋織色の
 振掛を十文字に構り。水藍條の子ぬぐひを向ひぎまに

ぶらり。御巻。一。る。勇。之。
 机あり。あ。く。越。栗。城。之。に。
 里。又。一。つ。竈。あり。て。在。
 一。昔。の。姿。あり。て。一。基。
 と。戦。ち。一。務。真。と。辛。ひ。
 相。坊。心。は。親。く。る。松。の。風。
 ハ。琴。と。彈。く。仲。達。と。
 を。ら。せ。る。株。汁。の。趣。と。

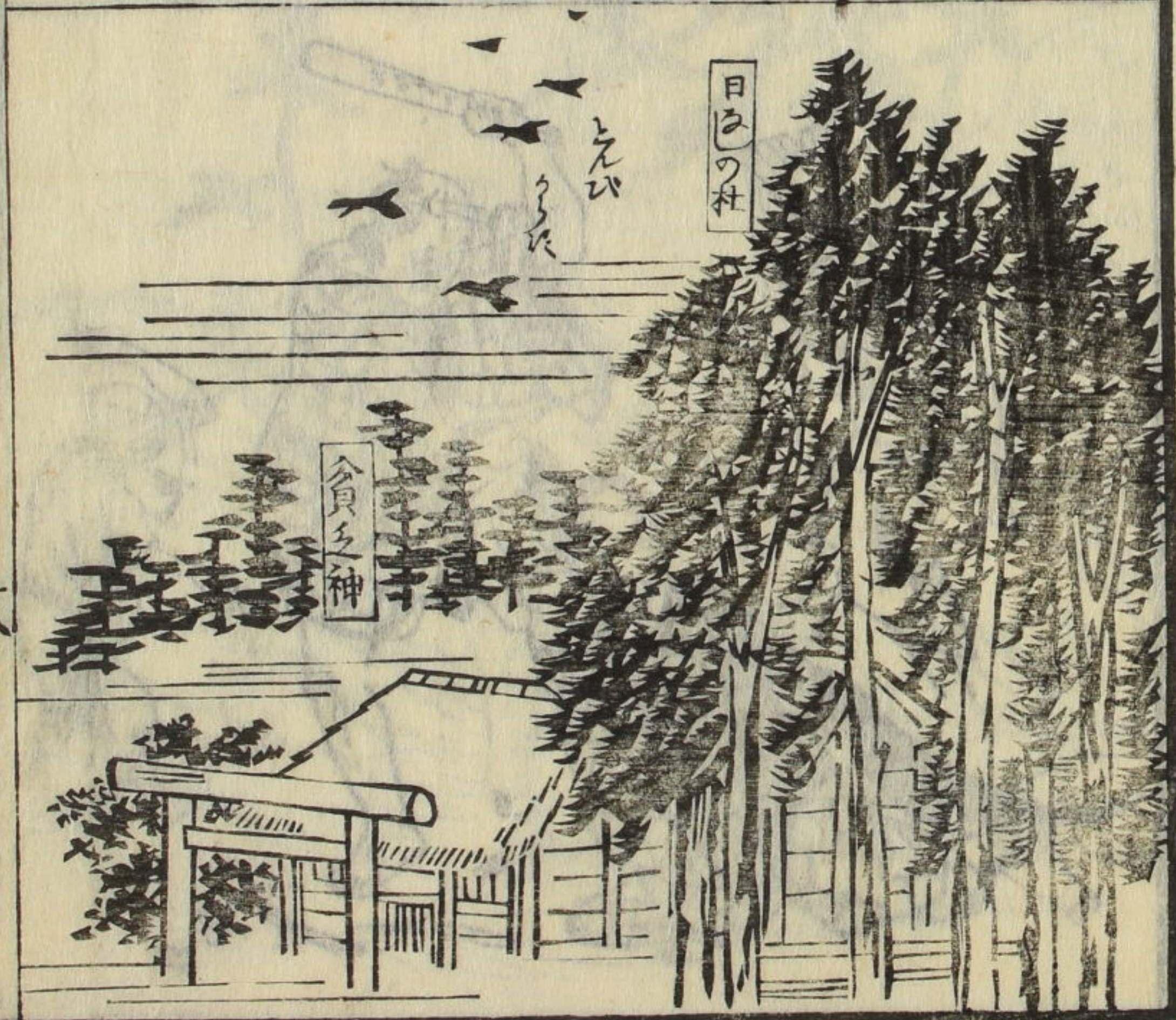


摸。一。務。真。の。鼓。と。る。水。音。の。責。鼓。と。あ。ひ。し。て。雨。陣。
 一。回。り。周。声。と。奉。一。ハ。赤。壁。上。り。而。弟。の。大。歌。と。慶。と。一。
 たち。も。形。と。怪。し。む。む。の。り。と。物。傳。と。く。わ。ん。ど。も。
 お。ろ。ろ。の。り。〇。相。坊。心。の。山。と。ゆ。く。一。嶮。岨。と。を。た。あ。に。
 登。り。て。奥。の。院。と。や。往。ら。づ。る。者。と。も。あ。り。多。か。ハ。昔。
 一。づ。つ。り。足。と。纏。へ。ら。る。樹。の。根。に。踏。き。家。と。生。ひ。身。
 と。果。然。と。の。お。ろ。ろ。と。〇。ゆ。く。と。山。と。り。か。づ。り。と。縁。と。と。
 歎。と。と。迷。ひ。の。雪。と。り。の。雪。欠。廻。り。と。雪。と。雪。と。と。と。



彼雲獣より遠くあり。
 何れや成るべき目
 けり。身と共ふ
 あり。あるはあり
 ○熊坂長半物への松
 あり。○塞の河系地蔵寺
 あり。おぼろの玉箱根山
 あり。おぼろ。大なるす

けり。つゝみは守る
 あり。○とどつ回○熊坂
 あり。の田地多し。おぼろ
 あり。馬もあれども牛は
 あり。○丸裸のみ米田は
 あり。源道明王と安田に大判
 あり。あり。おぼろ。おぼろ
 あり。おぼろ。おぼろ。おぼろ



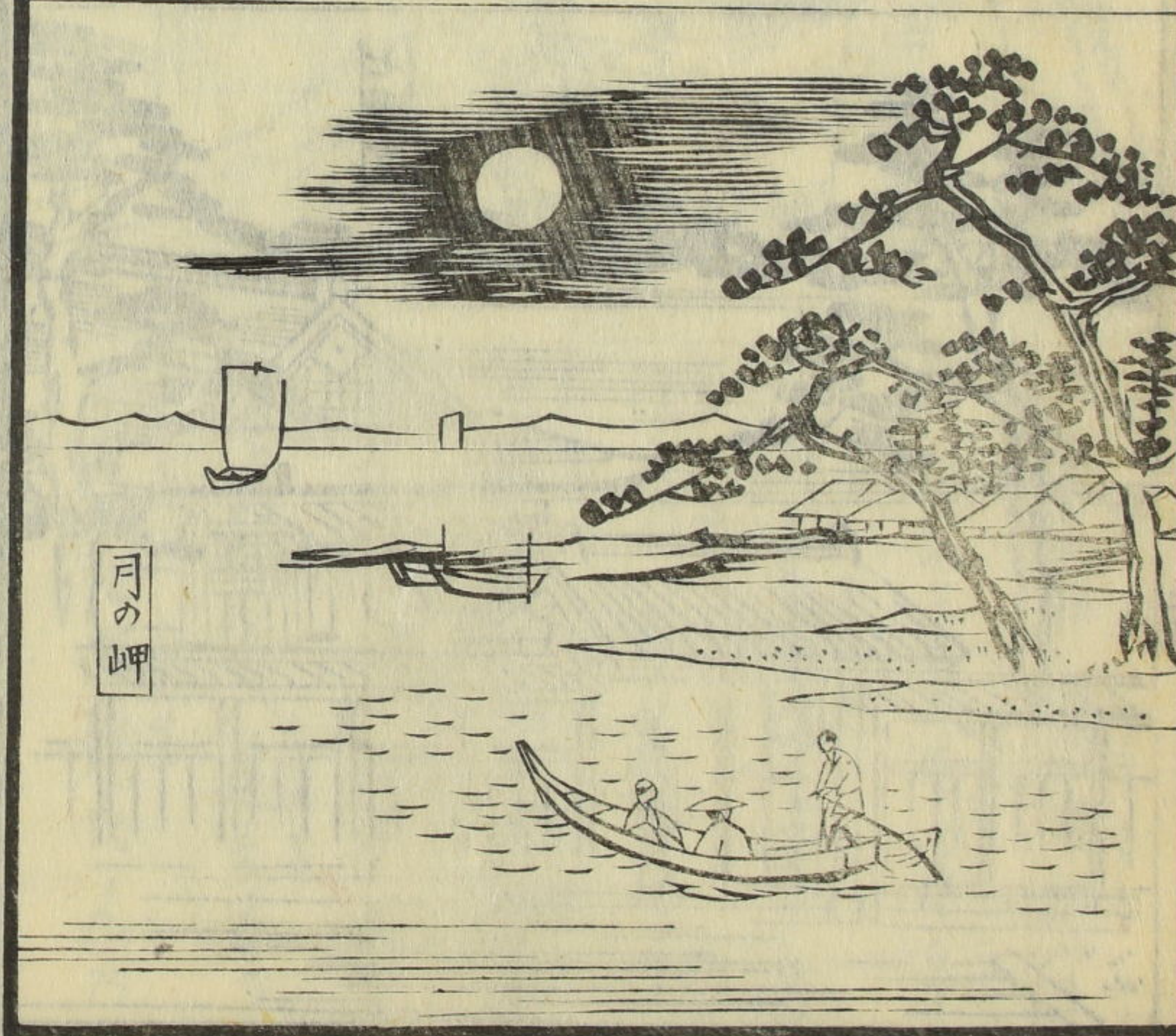
けちせん大沙弥何ぞ。
當寺に門あり寺と云。
一文ありと云ふ義あり。
○本寺の右乃方り○
五重乃殿あり西京
に云。どうほう。東京で
ある。後またたきなきけ
るの。連立にけ招より



○下る道一出て○雷りの
ぶつた山へかゝる。あふ
登る者北あり也。是身
より出る鏡水りと親意す
づー○あふびの歳○月
あり。杜あふ何り。この
旧形乃ありハ。或時多
く橋を築成す所あり。



云々者。安んぢる。ば
 苦勞せ。右。ある。〇。動
 正寺。も。事。さ。う。と
 多。く。〜。む。う。〜。苦
 娘。が。蛇。り。な。り。〜。と。
 心。は。清。く。名。所。あり。是。
 より。候。き。さ。り。〇。賃。料
 の。後。此。を。返。り。損。え



月の岬

れ。う。砂。あ。り。く。怪。む。す。〜。〇。高。利。き。多。〜。而。や。四。文。の
 利。を。と。り。食。ふ。さ。り。〜。は。啼。泣。あ。け。さ。さ。〜。く。少。い。ふ
 に。似。う。〜。と。か。〜。の。あ。〜。さ。〜。り。〜。鄙。び。〜。〇。銚。子。月
 の。岬。も。苦。〜。死。系。色。の。名。所。あり。

發月道中記二編上之巻終

